

情報連絡員報告を中心とした
県内の中小企業動向
&トピックス・2月

■味噌製造 【県下全域】

総務省家計調査による昨年の味噌購入金額の対前年比は98・1%、購入数量の対前年比は97・7%。連合会全体としては、対前年比(出荷量)は99・1%であった。

■その他繊維製造 【県下全域】

鋼鉄材料の単価が1割5分アップ、ガソリン・軽油が前年に比べ2倍になった。

■製材 【県下全域】

素材、製材品ともに取引は極めて低調。特に素材については並材を中心に価格は下げるところまで下げた感がある。

一方で、サンブスギなどの大径木の良材は県外(秋田など)からの引合いもあり値を付けている。

■生コン製造 【県下全域】

前年同月比、前月比共に減少したが、4~1月の累計では前年比110%を超えており、回復傾向にある。

■電気鍍金 【県下全域】

売上は増加しているが、製品加工価格が低下している関係で、収益が多多少悪化している。

■鉄工 【千葉】

特段の変化はないが、各社受注量には恵まれており、決算の見通しも

一応明るい。

■土砂採取 【銚子市他】

山砂は確保しているものの、長引く景気低迷で需要は激減、原油の高騰など悪条件が重なり経営は非常に厳しい。

■建築材料卸売 【県下全域】

セメント建設関連には景気の回復は感じられない。ここ2~3年は更に落ち込み、底を打つのは08年度頃。その後も需要増は期待できないので、コストダウンと値上げを継続し収益回復を図るしかない。

セメントは製造コストアップを吸収すべく値上げ交渉が続いており、主要ユーザーである生コン各社は骨材、砂、輸送費などコストアップ要因が累積されているため、新年度は生コン・セメント共に値上げに動いている。輸出は、量、価格ともアップしており、当面は好調が続く予定であるが、内需は災害復旧が一段落した現在、更に低迷している。

■自動車解体 【県下全域】

新車販売は、前年同月比で8ヶ月連続の減少が続いているが、使用済み自動車の入庫は自動車リサイクル法の施行以来、初めて前年同月を僅かながら上回った。リサイクル法の定着に関し、国が打っているさまざまな施策が功を奏してきた兆候だとすれば喜ばしいことだ。

■鉄スクラップ市況も2月に

入ってやや上向いてきた。輸出の引き合いが強いことが、相場上昇の原因と見られている。一方国内中古部品市場は低迷中で業界の不況感を変わらず。

■自動車解体業界の全国組織、日本

ELVリサイクル機構は、18年度に予定されているエアバッグの車上作動処理契約業者に対する国の監査に備え全国でブロック会議を展開中。

■小売 【柏】

商品が春物に変わりつつあるが、寒気が厳しく、陽気待ちの状態である。営業日数が少ない分、売上減となっている。

■電気機器小売 【県下全域】

オリンピック商戦も振るわず薄型テレビ、デジタル商品を含めて一服感があり不振である。

■中古車仕入・販売 【県下全域】

相場の大勢は強含み基調(一部には変動の指摘あり)で、いつ弱含みに転じてもおかしくないといった警戒感がある。直販の手応えも不十分、輸出も一日ごとに変化するかのようになあやしさが目立つ。

■小売 【東金】

月全体では、若干ずつではあるが回復の兆しが出てきている。寒い中、春物商材が陳列されており、季節の変わり目の販売機会を逸した感がある。新入学関係商品はまずまずの出

足のようなのである。

■小売 【野田】

ファイナルバーゲンセールを実施したが、見切り品に動きがあったただけで、他は売上が伸びなかった。

■農業機械販売整備 【県下全域】

日本農業機械工業会の1月の出荷統計では、前年同月比で生産は5・1%減、出荷は2・7%減。国内出荷は0・1%増であったが、輸出は5・2%減であった。

本年の国内向け出荷は前年比プラス微増の予想である。

■その他の小売 【勝浦】

今年は例年になく寒さのため、観光客が少ない。特に房総の花見等に影響が出ている。ただ、勝浦市では、2月25日から3月5日までビッグヒナ祭りが開催され、年々多くの来場者があり、今年も30万人を見込んでおり、経済効果が期待される。

■小売・サービス 【銚子】

ますます悪くなっているような感じがする。

■小売・サービス 【習志野】

2月は「冬ごもり」状態で、3月の人の動きに期待している。

■小売・サービス 【千葉】

2月は大きな行事も少なく、各店とも客の入りが悪かった。

■建設揚重 【県下全域】

稼働率は好調を維持しているが、いつまで続くかは不明である。

■旅館 【勝浦】

少しずつ良くなっている。

■遊覧船 【鴨川】

悪天候の影響により集客が減少している。

■学習塾 【県下全域】

2月という月は、中学受験、高校受験で成り立っているような塾にとつては、最悪の月である。合格した生徒たちが抜けていく月であり、3月の新学期との間に1ヶ月空く感じがする。

■ソフトウエア 【県下全域】

ゆるやかに好転している。

■建設 【県下全域】

当連合会加入組合員の官公庁(国、県、市町村)からの受注は25億6千7百万円であった。前月比では、7億1千万円の減少であり、前年同月比でも12億4千5百万円の減少であった。特に、官公需の減少が業界全体の景況に大きく影響している。

■貨物運送 【野田】

世間一般には好転しているかのようには言われているが、末端業社へのしわ寄せの上に成り立っているような気がする。人件費もこれ以上良くするわけにはいかないため、最近では人手不足になっている。